

# 環境保全型農業直接支払交付金 実施状況について



令和3年8月  
農業経営課 環境・植防グループ

# 1 農業農村 多面的機能支払事業の概要

## 日本型直接支払制度

### ① 多面的機能支払（農業農村多面的機能支払事業）

農地維持支払

資源向上支払

### ② 中山間地域等直接支払

### ③ 環境保全型農業直接支払

自然環境の保全に資する農業生産活動の実施に伴う追加的コストを支援

# 第三者委員会が実施する調査・点検内容について

○ 第2期の交付状況の点検及び効果の評価計画

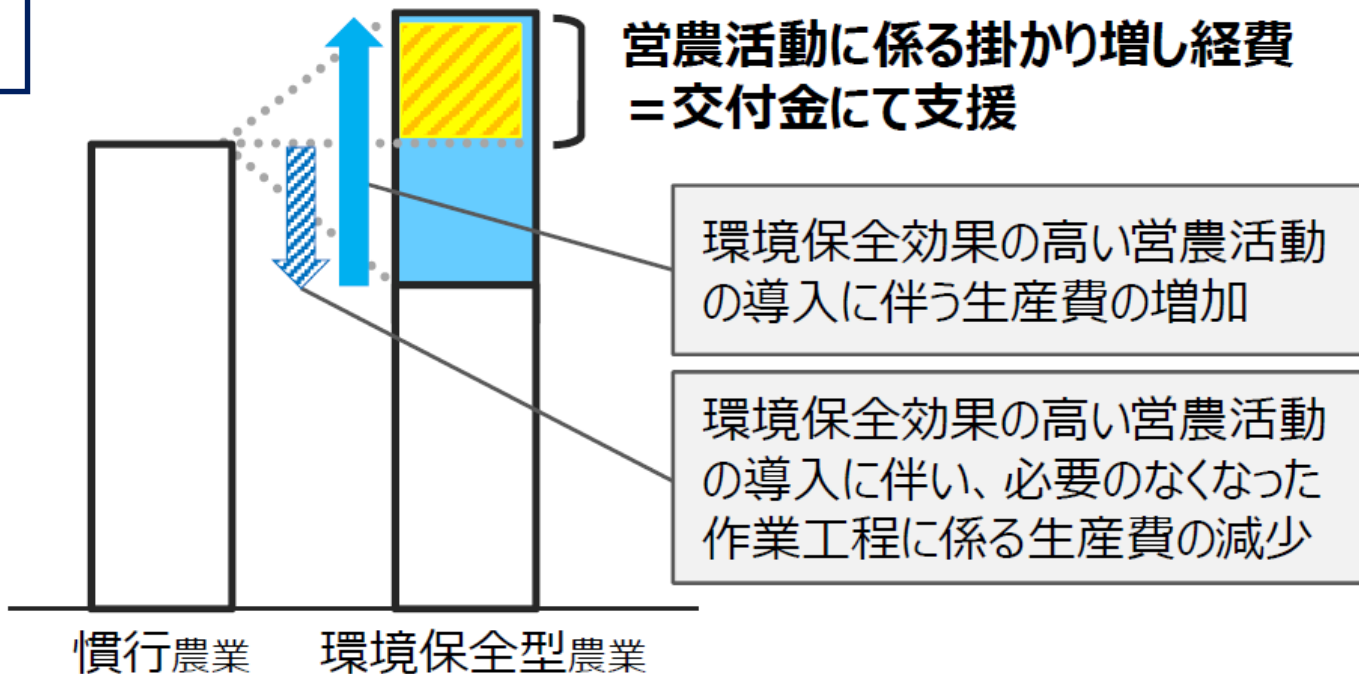
	R2年度 (1年目)	R3年度 (2年目)	R4年度 (3年目)	R5年度 (4年目)	R6年度 (5年目)
国	交付状況点検	交付状況点検	交付状況 点検	中間年 評価	施策 評価
県	交付状況点検	交付状況点検	調査・ 中間年 評価	追加調査 ・ 最終評価	交付状況 点検

# 目次

- 1 制度の概要
- 2 交付状況の点検

# 1 環境保全型農業直接支払制度の概要

## 支援内容



第1期：H27→R1

第2期：R2 →R6

第2期の開始に伴い、  
交付単価や取組内容、  
対象者の条件等が変更

支援対象となる取組（第2期）			
① たい肥の施用	継続	⑤ 不耕起播種	新設
② カバークロップ	単価減	⑥ 長期中干し	新設
③ リビングマルチ	新設	⑦ 秋耕	新設
④ 草生栽培	新設	⑧ 有機農業	単価増

# 支援対象となる取組の内容

前項①～⑦の取組

又は

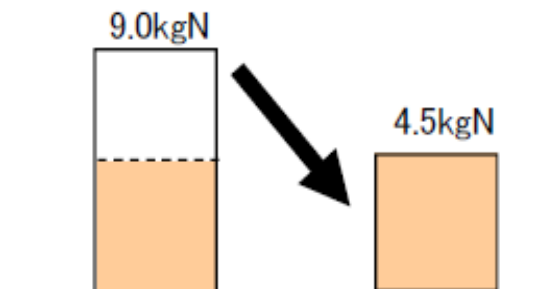
⑧国際水準の有機農業

支援対象となる  
①～⑦の取組

+

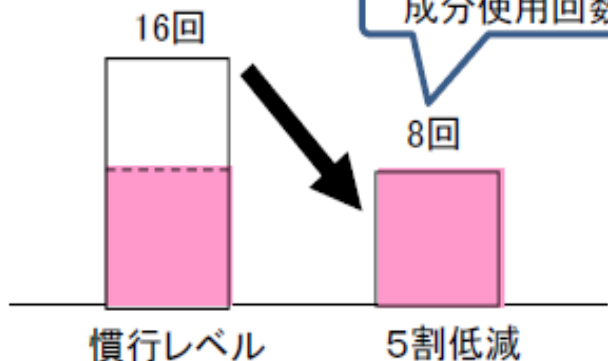
化学肥料

5減・5減の取組



化学合成農薬

成分使用回数



## 法律上の有機農業

- ・化学合成肥料及び農薬の不使用
- ・遺伝子組換え技術禁止
- ・環境への負荷をできる限り低減

+

## 国際水準の要件

R2  
新設

- ・使用禁止資材の飛来防止
- ・作付け前一定期間の使用禁止資材不使用

など



# 対象となる取組の内容

温・・・地球温暖化防止効果が高い

生・・・生物多様性保全効果が高い

## ① 堆肥の施用 温



炭素貯留効果の高い堆肥施用  
交付単価：4,400円/10a

## ② カバークロップ 温



栽培期間の前後に緑肥作付け  
交付単価：6,000円/10a

## ③ リビングマルチ 温



作物の畝間に緑肥作付け  
交付単価：5,400円/10a

## ④ 草生栽培 温



果樹・茶園に緑肥作付け  
交付単価：5,000円/10a

# 対象となる取組の内容

## ⑤ 不耕起播種 温



全面耕起を行わずに播種(小麦等)  
交付単価：3,000円/10a



## ⑥ 長期中干し 温

通常よりも長期の  
中干し(水稲)  
交付単価：  
800円/10a

## ⑦ 秋耕 温



秋季に耕耘＋春季に湛水(水稲)  
交付単価：800円/10a

## ⑧ 有機栽培 温 生



国際水準以上の有機農業  
交付単価：12,000円/10a



# 対象者

## ① 農業者の組織する団体

複数の農業者、又は農業者と地域住民等による団体

※ 環境直払に取り組む農業者が団体内に 2名以上必要

R2  
新設

## ② 一定の条件を満たす農業者

- i) 集落の一定割合以上の農地で取組を行う農業者  
耕作する集落又は全国平均の概ね1/2、土地利用型作物以外は2割以上
- ii) 環境保全型農業を志向する農業者と連携する農業者  
志向する農業者と連携し、環境保全型農業の拡大を目指す

R4  
まで

## ③ 複数の農業者で構成されている法人

農業協同組合を除き、複数の農業者で構成されている法人

# 支援対象農業者等の要件

① 販売することを目的に生産を行っている

② 国際水準GAPを『実施』している

※ 認証取得の有無は問わない

## 環境直払での「国際水準GAP」の考え方

「食品安全」・「環境保全」・「労働安全」  
「人権保護」・「農場経営管理」の5項目  
全てについて学び、実施すること

環境直払GAP : 5項目×2取組 = 10項目

GLOBALG.A.P. : 約220項目

## 2 交付状況の点検（R2年度）

【実施件数及び面積】（R3は計画値）

- 件数は減少したが、面積の増加により1件当たりの交付額が増加

年度	実施件数 (件)	交付額計 (千円)	実施面積 (ha)
R1	50	24,549	402
R2	45	27,613	414
R3	46	31,158	496

## 【取組別実施面積】（R3は計画値）

- 堆肥の施用、秋耕（R2新設）は取組面積が増加
- カバークロップは取組み面積が減少
- 有機農業については増減なし

単位：ha

年度	堆肥の施用	カバークロップ	リビングマルチ	草生栽培	不耕起播種	長期中干し	秋耕	有機農業
R1	212	87	—	0	—	—	—	103
R2	225	83	0	0	0	0	3	103
R3	269	89	0	0	0	0	27	110

## 【作物別の実施状況】

○ 水稲と麦・大豆が取組面積の7割以上

○ 野菜・いも類、果樹・茶は有機農業の取組が多い

単位:ha

年度	水稲	麦・大豆	野菜・いも類	果樹茶	その他	合計
R1	228 (57%)	67 (17%)	59 (15%)	22 (6%)	27 (7%)	402
R2	248 (60%)	55 (13%)	61 (15%)	21 (5%)	30 (7%)	414
R3	未集計					



## 【地域別の実施状況】(R2実績とR3計画)

地域	取組市町村数		申請件数(件)		実施面積(ha)	
	R2	R3	R2	R3	R2	R3
尾張	4	<b>4</b>	8	<b>9</b>	10	<b>1 2</b>
海部	1	<b>1</b>	2	<b>2</b>	74	<b>7 4</b>
知多	7	<b>7</b>	11	<b>1 2</b>	108	<b>1 4 1</b>
西三河	2	<b>2</b>	5	<b>5</b>	88	<b>1 0 7</b>
豊田加茂	1	<b>1</b>	8	<b>8</b>	89	<b>9 8</b>
新城設楽	1	<b>2</b>	3	<b>4</b>	23	<b>2 5</b>
東三河	3	<b>3</b>	8	<b>6</b>	20	<b>3 9</b>
合計	19	<b>2 0</b>	45	<b>4 6</b>	414	<b>4 9 6</b>